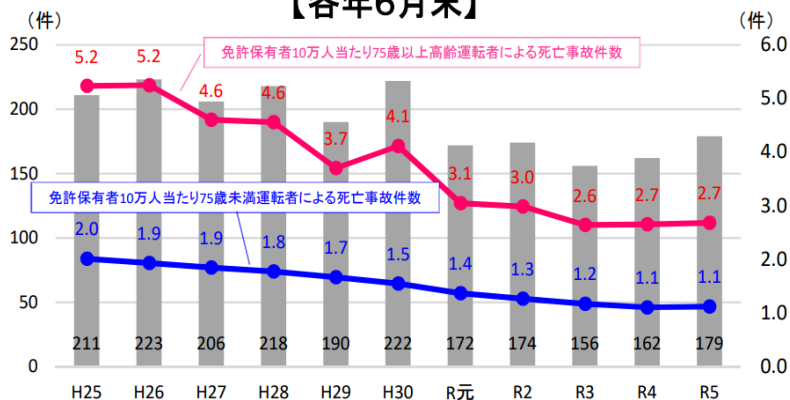


免許返納リスクの情報提示による 意識変容についての研究

京都大学大学院工学研究科 中尾聡史
モビリティプロモーション 大野悠貴
京都大学大学院工学研究科 田中皓介

高齢者ドライバーの社会問題化

75歳以上高齢運転者による死亡事故件数の推移
【各年6月末】



(注)・第1当事者が原付以上の件数である。

・算出に用いた免許保有者は、各前年12月末の値である。

警視庁HPより引用



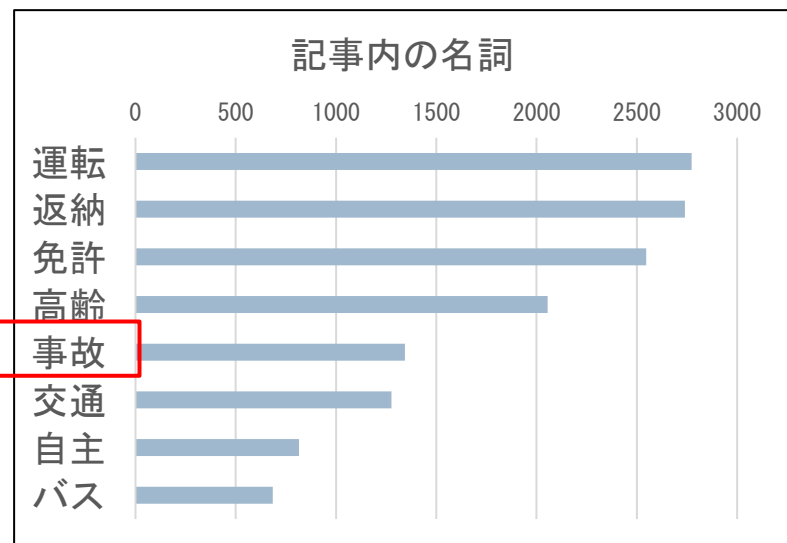
読賣新聞2019年4月20日

- 高齢化により、免許保有者の**4人に1人**が高齢者ドライバー
- 身体能力の低下から高齢になるにつれ事故リスクが増加
- 75歳以上による死亡事故件数はその他の人によるものの**約2.5倍**

- ◆「高齢者の運転＝危険、免許返納」のイメージの広がり
- ◆高齢者に免許返納を求める過剰な意見
- ◆高齢者の免許返納の**社会問題化**

報道の分析

朝日新聞クロスサーチで、2015年～2023年7月の記事内に「免許返納」or「免許自主返納」を含む記事(561件)を調査した。



<実際の記事抜粋>

『警察庁の統計では、昨年の75歳以上による死亡事故は全国で346件で、前年より13件増えた。免許人口10万人あたりの死亡事故件数は75歳未満の2倍以上だった。ハンドル操作の誤りやブレーキとアクセルの踏み間違いが原因の事故の割合は、75歳以上になると特に多くなる。(中略) 県警東北信運転免許課は「体の衰えを自覚したら免許返納を検討してほしい」と呼びかけている。』

(朝日新聞2022年5月13日朝刊)

◆ **事故リスクを強調**することで、高齢者に返納を迫るような恐怖喚起コミュニケーションが行われている。

免許返納による健康リスク

運転の継続有無による要介護認定リスクの違い

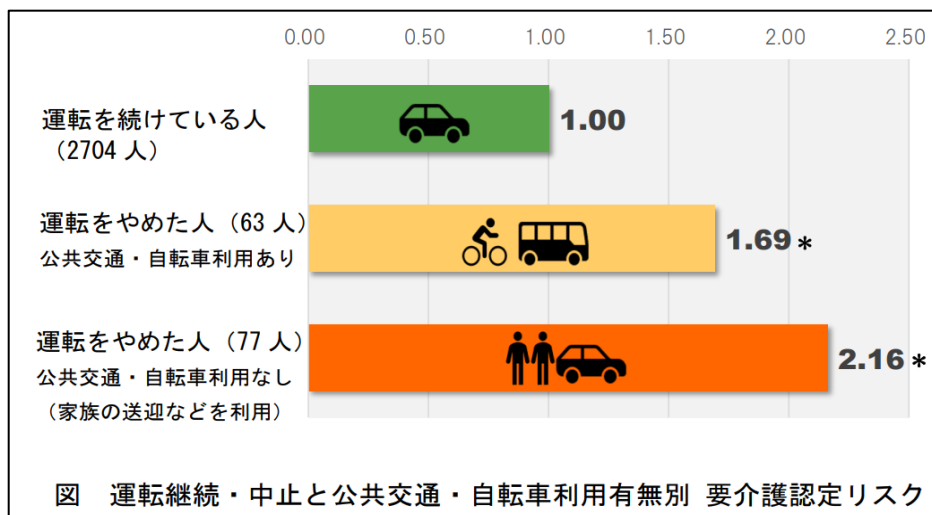


図 運転継続・中止と公共交通・自転車利用有無別 要介護認定リスク

筑波大学報道発表、市川政雄「運転中止で要介護リスクが2倍」より借用

- 返納後に**要介護リスク**の増加の可能性
- 返納による入院、**抑うつリスク**の増加の可能性

◆ 免許返納問題において、高齢者の**健康リスク**への配慮が必要

ジレンマの発生

<免許返納しない場合>



返納せず運転継続



事故リスク増大

<免許返納する場合>



返納して運転中止



健康リスク増大

免許返納問題において、事故リスクと健康リスクのどちらかを受け入れなければならない**ジレンマ状況**が発生

- 片方のリスクの解消ではなく、
ジレンマの解消が必要！

免許返納による健康リスク

運転の継続有無による要介護認定リスクの違い

事故リスク
あり

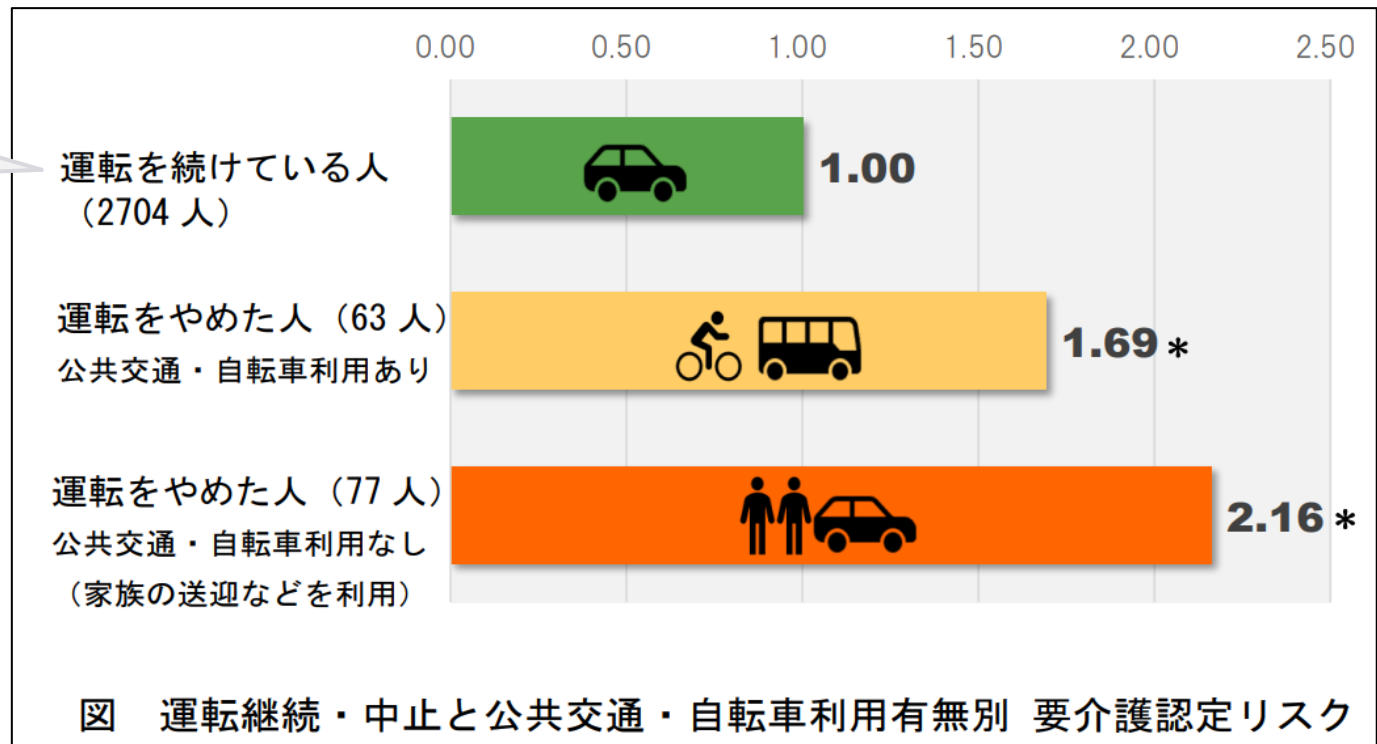


図 運転継続・中止と公共交通・自転車利用有無別 要介護認定リスク

筑波大学報道発表、市川政雄「運転中止で要介護リスクが2倍」より借用

◆ 免許返納後に外出手段を確保しておくことが大事！

既往研究（なぜ返納後の外出が減るのか？）

- 免許返納後、公共交通が利用できる環境にあるにも関わらず **公共交通が利用できず、外出頻度が減少している。**

運転停止者へのアンケートとインタビューから得られた免許返納意思決定プロセス(榎本ら2022)

- 高齢者ほど行動変容しづらく、若い世代から取り組みが重要である。

健康に配慮した交通行動誘発のための学術的研究(谷口ら2017)

- **返納前**の運転頻度が高い人（マイカーに依存している人）ほど返納後の移動に困っている。

居住地特性から見る運転免許返納者の特性把握(橋本ら2011)



◆ 免許**返納前**の行動変容が重要である。

一方で、現在の政策の多くは、返納**「後」**に公共交通チケットを配布するものであり、返納前の行動変容に焦点があてられていない。

健康リスクの低減に向けて

マイカー依存の場合



マイカー依存
公共交通利用慣習なし

公共交通が整っていても
活用できない。
返納後の行動変容は難しい。

外出減少
健康リスク増

移動の多様性がある場合



マイカーにも色々な選択肢がある

- ・サポカー
- ・補償運転
- ・シニアカー(免許不要)

外出手段の確保

健康リスクの低減

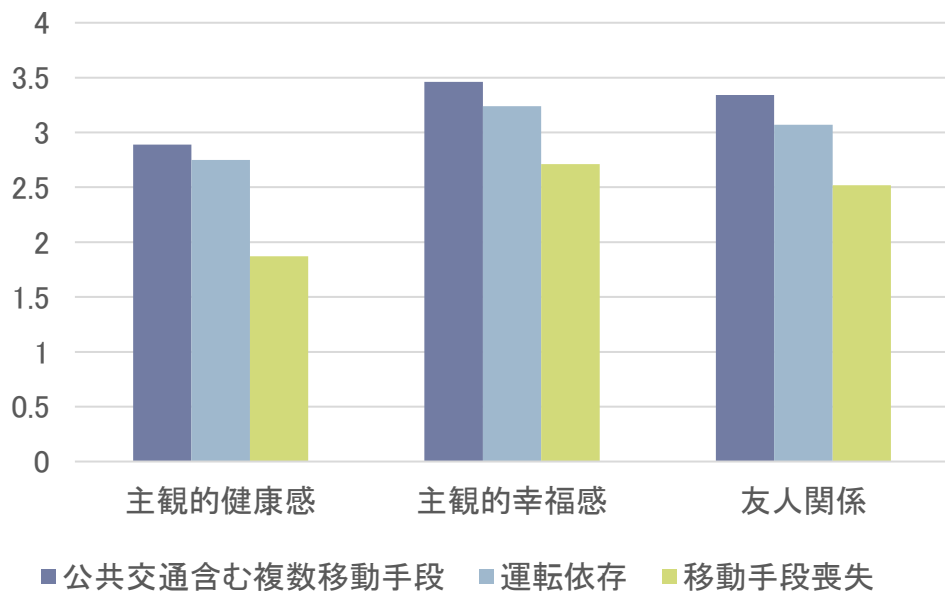
⇒免許返納(災害)に備えたレジリエントな移動の確保が重要

既往研究（複数移動手段の重要性）

北海道の65歳以上の高齢者を対象に、様々な指標と移動手段の関係を分析。

選択可能な移動手段に着目した高齢者の生活実態からみる公共交通の重要性分析(竹口ら土木計画学研究・講演集 68 CD-ROM 2023年11月)

移動手段と各指標の関係



- ・公共交通などの**複数の移動手段の確保**がすべての指標において高位である。
- ・**移動手段喪失、運転依存**は複数移動手段に比較して低位である。
- ・マイカー依存者が免許返納をしまうと、移動手段喪失群に近づく恐れがある。

公共交通を含んだ**複数の移動手段**を確保しておくことが、
平時における暮らしの豊かさをもたらす

現状の政策（返納後のインセンティブ） は青線

マイカー依存の場合



移動の多様性がある場合



外出手段の確保

健康リスクの低減

まず目指すべきは赤線

マイカー依存の場合



公共交通が整っていても
活用できない。
返納後の行動変容は難しい。

外出減少
要介護リスク認定リスク増

移動の多様性がある場合



外出手段の確保

返納前の交通行動の見直し
マイカー“依存”脱却(依存が問題)
多様な移動手段の確保

健康リスクの低減

MMの定義

「過度に自動車に頼る状態」から
「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度
に(=かしこく)利用する状態」
へと少しずつ変えていく一連の取組

国土交通省「モビリティ・マネジメント 交通をとりまく様々な問題の解決に向けて」,2007

渋滞や環境、あるいは個人の健康等の問題に配慮して、
過度に自動車に頼る状態から公共交通や自転車などを
『かしこく』使う方向へと自発的に転換することを促す、
一般の人々や様々な組織・地域を対象としたコミュニケーションを
中心とした持続的な一連の取り組み

JCOMMホームページより

⇒単なる公共交通の利用促進ではない！
自動車利用を否定するものでもない！

本研究の目的

免許返納による健康リスクをあえて提示することを通じて、返納前からの交通行動変容の重要性を伝える情報提供を行い、その効果を検証する。

- 健康リスクを認知することで、返納前からマイカーに依存せず多様な移動手段を持つことの重要性に気づいてもらう。
- 「将来の自分のために今から交通行動を見直そう」というような人生という長期的な文脈の中に「交通」を位置づけ、適切な行動を見直させるきっかけを提供する。
- 免許返納におけるメリット（事故リスク低減）とデメリット（健康リスク増大）を同時に提示することになり、二面的コミュニケーションとなる。

⇒免許返納意識の向上、交通行動変容の促進が期待できる。

提示情報

事故リスク

近年、高齢者の運転による交通死亡事故が増加しています。平成31年に池袋で発生した高齢者ドライバーによる死亡事故は世論に大きな影響を与え、高齢者による自動車の運転が問題視されました。実際、加齢による身体能力の低下によって、運転能力が低下することから、高齢になるにつれ事故リスクが高まることが明らかにされています。こうしたことから、多くの自治体では、高齢者に運転免許証を自主返納することが推奨されています。また、75歳以上の高齢者は、免許更新時に認知機能検査を受ける必要があり、予期せぬ形で突然、運転免許を手放さなければならないかもしれないです。

健康リスク

しかし、免許を返納することで移動手段がなくなってしまうことに対して、高齢者が大きな不安を抱えていることも事実です。実際、運転免許を返納することで、外出機会が減少し、要介護リスクが高まることも近年の研究によって明らかにされています。例えば、マイカーに依存した暮らしを送ってきた高齢者は、免許返納後に公共交通を利用できる地域環境であっても、公共交通を使いこなせず、外出が困難になっているケースも報告されています。

対策

元気なうちにマイカーに依存した生活から脱却し、バスや電車といった公共交通、さらには自転車や徒歩での移動に慣れておくことが大切です。自らの交通行動を見直し、返納後の暮らしをイメージしておきましょう。

- 免許返納前からの公共交通と徒歩の利用意図を促進させる可能性がある。
- 免許返納不安をより低減させる効果がある。

ワークショップの実施

■愛媛県八幡浜市の概要

人口：30,183人（うち、真穴地区 1,025人：2024年7月現在）

面積：132.65 km²

■真穴地区について

- ・リアス式海岸沿いに国道 378 号線が通り、海岸沿いに集落が張り付く
- ・急傾斜地を利用したみかん栽培が盛ん（「真穴みかん」が有名）
- ・宇和島自動車の路線バスが、朝 7 時～夜 19 時（秋冬 18 時）までの間、約 1～2 時間に一本程度、八幡浜市中心部まで運行（駅まで約 30 分）



「としお」さん（免許返納「前」）

- ・74歳男性
- ・買い物、通院、どこに行くのも自分が運転する自動車
- ・家族に免許を返納することを勧められるも、「返納後の暮らしがとても不安で返納なんてできないよ」と思っている

「ゆきお」さん（免許返納「前」）

- ・74歳男性
- ・自動車も使うけど、街中に行くときは公共交通を使ったり、近所の病院には徒歩や自転車をすることも
- ・免許返納することを考え始めている
- ・「自動車なくなるのは不便だけど、まあ返納してもなんとかなるかなあ」と思っている

「としお」さんと「ゆきお」さんは

免許更新のタイミングで
免許を返納することに。

「としお」さん（免許返納「後」）

- ・公共交通使えば何とかかなるかと思っていたが、いざ使ってみるとわからないことがばかり
- ・家族や友人の送迎に頼ろうと思うけど、頼みづらい
- ・外出するのが億劫になり、いつのまにか健康を害してしまいました

「ゆきお」さん（免許返納「後」）

- ・自動車がなくなって不便になったものの、公共交通で買い物に行ったり友達に会いに行ったり
- ・家族や友人の送迎に頼れないときは公共交通や徒歩を駆使しながら移動
- ・自分の力・意志で何とか外出できています

冊子の作成

今からはじめる! おでかけの準備運動のススメ

突然の「免許返納」で困らないために

事故リスクや健康リスクを踏まえた、トシオさんとフミヒロさんそれぞれの選択。あなたはどちらの生活を選びますか？



今年で70歳を迎えたトシオさんとフミヒロさん。初めての高齢者講習で、将来の外出手段への「不安」が浮き彫りに。



トシオさん



フミヒロさん

それから数年後...

現在70歳、フミヒロさんの選択

70歳の高齢者講習後、フミヒロさんは夫婦益糧です。75歳から認知機能検査があるんだってさ。5年後だよ...

あんならまだと運転できないのね？

それから数年経ったある日...

免許返納してきたよ。最近運転が不安だったから肩の荷が下りたよ。

長い間大変お疲れ様でした！でもこれからはたくさんお出かけしようね！

おでかけの際はクルマ以外も試してみる!

クルマがなくてもいろんな手段を使えばどこでも行けるっしょ!

準備運動をしていたおかげで計画的に免許返納ができたフミヒロさん

地下鉄で夫婦仲良くお出かけ

マイカーよりは不便だけれど様々な移動手段を使って今までは通ったおでかけもできるようになりました

頂上まで300m

電車とバスで手稲山に来たフミヒロさんとお友達

生活家族みんなで考えまじったの

歩いていけるお店や病院は欠かさないよね

シニアカーもいいかも!

クワクワクワクワ

長女:42歳 長男:37歳

70歳のフミヒロさんは運転卒業後の生活家族みんなで考えまじったの

おでかけの際はクルマ以外の手段も試すことを選択したフミヒロさん。日頃からバスや電車、時には自転車や徒歩などでどこでも行けちゃうパワフルな70歳。免許返納後も充実した日々を送る。

運転するのめんどくさいからね、楽しかったのは今では家族や仲間のおかげだったし、おでかけを楽しむフミヒロさん。元氣なうちに他の移動手段の準備運動をしておこうと、心底思うのでした。

まじで将来のおでかけの準備運動ってやつだな!

運転は便利だからしばらく続けるけど、それ以外のバスや電車も元氣なうちに試してみよう!

そうフミヒロさんはこの選択をしました

国土交通省北海道開発局発行

まとめ

- 「危険だから返納しよう」
ではなく
「将来の自分のためにも、
今から“準備運動”しておきましょう！！」
というコミュニケーションへの転換が必要。

⇒まさに

「過度に自動車に頼る状態から
公共交通や自転車などを『かしこく』使う
方向へと自発的に転換することを促す」
モビリティマネジメントそのもの